

TAIWAN JAPAN

次代の国際交流を
提案したい



オリエンテーション
同志社にご到着



表彰
淡高の先生といっしょに



アイデアをシェア
頭も手も使ってスピーディ
に意見交換する

COLLABORATION_11



国境を越えて

ロボットの動きをプログラミング！

2014年11月16日、台北の名門の私立中学「淡紅高級中学」の高校生と同志社中学が国際交流した。メインとなる授業交流プログラムは、ロボット制御のプログラミングを日台共同で作るという共同開発体験である。まずは淡紅高級中学の先生がロボット(LEGO)の基本を生徒たちに教え、台湾生徒がアシスタント役とし同志社中学生徒の各グループに入り、「より速くゴールする車のような何か」を制限時間内に製作／プログラミングし競い合うというものだ。

未来の授業に国境はない。年齢も立場も専門分野も超えて、アイデアや学びをシェアする授業がやってきた

この同志社訪問の後すぐにWRO世界大会（ソチ開催）に参加されるようで、かなり精通した淡紅高級中学の先生と生徒達である。あつというまに時間は過ぎ去り、レースとなった。

もう一つの目玉プログラムは、ホームステイである。この春には台湾でホームステイさせていただいたが、今回は台湾の生徒を迎える番。8組のご家庭の協力を得て、ホームステイを無事成功させることができました。ありがとうございます。実は淡紅高級中学と同志社香里のラグビー部は深い仲にあります。同志社中学とも今後交流していけたらと思いました。

台湾の生徒のみなさんが「緊張した」と言っておられたのは、初めての「日本授業体験」...ホスト役の生徒が、日常の普通の授業にエスコートする。つまり、日本語の言葉で進められる授業に入るといふドキドキの時間だったのである。

最後に授業プログラムとして行ったものは、依頼のあった技術の授業で、「竹とんぼ」と「模型飛行機」を製作した。本校教員が簡単に説明したあと、日本人生徒が台湾の生徒に日頃から勉強している英語を駆使して、作り方を教えていくというプログラムである。ものづくりの場面では、「カン」や「コツ」が大事で、それをいかにうまく伝えるかが課題となる。英語+ボディランゲージで一息懸命伝えられていました。曲げる角度/強さなどは、理想はあっても現実にはそう上手くいかない。うまくいかない現実をカンとコツとアイデアで臨機応変になんとか工夫して、目の前の問題にケリをつけていくのが技術の授業。飛んだらOK。より良い答えはたくさんあって、十人十色の解決策を結果とした独創的な作品となって表れている。だから飛行機も竹とんぼも飛ばすときは国境を越えて楽しいのである。

国境を越え課題を共同で

既に現実社会では、アジアの国の会社と上手くコミュニケーションをとりながら協同で商品開発しているものづくりが一般的になっている。「国境を越えて、ともに知識や知恵をシェアし、一緒になってアイデアを出し合い、目の前の課題に対して解決しようと挑戦していけたらいいな」、「そんな原体験をこの授業で体験できたらいいな」...これが、アジアものづくり授業プロジェクトの原点なのである。（沼田）

手作りのおもてなし



ともに学習活動・文化・学術研究を交換し、交流しながらお互いの発展に努力して行きたい



